透かしを削除する Wondershare PDFelement

10月コラム　『レッジョ・エミリアアプローチ』

蛯原修吾

また、しばらくぶりのShugo’sコラムの時間です。
毎度ファンが増えているようで、大変喜ばしいです。
前回の『十人十色』のお話しはいかがだったでしょうか。
情報社会に飲まれずに、うまく付き合う力。
人の数だけ、視点があり、価値観があること。

0-100思考ではなく、薬剤師の用に状況に合わせて、保育法を調合する力。
保育のことを深く考えると、私たちの生きる力にも、大切なメッセージを見つけることができると感じています。

今回は、今までのコラムのテイストとは異なり、
ミントリーフつくば園が大切にしている保育観
『レッジョ・エミリアアプローチ』を

◎500字で伝わる♡【ビギナー編】と
◎ラッキーセブンで深掘り★【プロフェッショナル編】

に分けて、丁寧に説明してみる試みです。
では行ってみましょう。

今回は、私の大好きなレッジョエミリアの本、
【レッジョ・アプローチ】アレッサンドラ・ミラーニ
【驚くべき学びの世界】佐藤学
を引用・参考にしながら進めていきます。

透かしを削除する Wondershare PDFelement

◎500字で伝わる♡【ビギナー編】

◎概要4W1H
・What　幼児教育法の一つ
・When　1950年代前半
・Where　イタリア北部　レッジョエミリア市
・Who　ローリス・マラグッツィ
・How　アート・ドキュメンテーション・プロジェクト保育

◎考え方
・子どもは生まれながらに、能力、知識、思いやりの心を持っている。
・保育者は、よく子どもを**観察**し、その機会を発揮する**「機会」**と**「場所」**を与える。
・**教え込む保育は良しとされない**。
・**五感を使った遊び**や活動を通して、子どもが自ら学びの基礎を作っていく。
・**非認知能力**が重視される。
・アートなどの活動では、出来上がったものだけに注目するのではなく、**プロセス**を大切にする。
・**小グループ**で活動を通し、**探究心**、話し合いの大切さ、**自制心**を身につけていく。

というわけで、こちらが、レッジョ・エミリアを凝縮した【ビギナー編】でした。
なんだかもっと知りたくなってきませんか？
活字が得意な方はぜひ、【プロフェッショナル編】を読み進めて見てみましょう！

◎ラッキーセブンで深掘り★【プロフェッショナル編】

★①子どもの100のことば
★②子どもに対する考え方
★③非認知能力
★④保育者の関わり方
★⑤アート
★⑥ドキュメンテーション
★⑦プロジェクト保育

★①子どもの100のことば
まず、創設者のマラグッツィさんの詩の一つです。
子どもは生まれながらに、豊かな想像力と可能性をもち、それを教育者が奪ってはならない、というメッセージ性が強く感じられる詩です。
具体的にどういった関わりがよいと考えられているかは★④でお話ししていきますね。

透かしを削除する Wondershare PDFelement

子どもには
100とおりある。
子どもには
100のことば
100の手
100の考え　100の考え方
遊び方や話し方100
いつでも100の聞き方
驚き方、愛し方
歌ったり、理解するのに
100の喜び
発見するのに　100の世界
発明するのに　100の世界
夢見るのに　100の世界がある。
子どもには　100のことばがある
けれど99は奪われる。
学校や文化が
頭とからだをバラバラにする。
そして子どもにいう
手を使わずに考えなさい
頭を使わずにやりなさい
話さずに聞きなさい
ふざけずに理解しなさい
愛したり驚いたりは
復活祭とクリスマスだけ。
そして子どもにいう
目の前にある世界を発見しなさい
そして100のうち
99を奪ってしまう。
そして子どもにいう
遊びと仕事　現実と空想
科学と想像　空と大地
道理と夢は
一緒にはならないものだと。
つまり
100なんかないという。
子どもはいう
でも、100はある。

透かしを削除する Wondershare PDFelement

★②子どもに対する考え方

まず、レッジョ・エミリアと言うのは、
1つの**「哲学」であり「理念」**です。そして、革命的で革新的で、先進的な教育に関する、思想の体系です。
マニュアルや正解などはなく、行われる土地によっても、また時代によっても、変化していく、フレキシブルな一面を持つんですね。決まりがありすぎるのも苦手だけど、ないのもこれまた、うーん、難しいですねー。

最重要な考え方は
・子どもは権利の主体である。
・子どもは生まれながらに、豊かな可能性、潜在能力、表現力を持っている。
・**知識は自分で考えること**、個人として尊重されているという安心感が大切。

では、子どもの権利とはどういったことでしょうか。
レッジョ・エミリアの考え方は、子どもたちの気持ちや、感じることを大人が最大限に尊重してあげることです。子どもたちには、悲しくなる権利、はしゃいでしまう権利、退屈する権利、迷ってしまう権利、黙っている権利、そして1人で入る権利、部屋みんなが一緒にやっていることに、参加しない権利があります。こうした気持ちになる権利を認めてあげることが子どもを尊重すると言うことなのです。

また、子どもはだれでも、自分の取り巻く世界が、どのような仕組みを持っていて、どうやって動くのかと言うことを、**自分の力で解き明かす理論と方法を、それらの中に持っているのです。**人は、その人生の1番最初の数年間に、自分の頭で考え、自分のやり方で何かを行い、自分の言葉で表現することを覚える必要があります。大人はそれぞれの子どもが、その力を発揮する**「機会」と「場所」を与えれば良い**と言う考えであります。

子どもたちが学ぶ事は、先生が教えてくれたこと、そのままではありません。
レッジョ・エミリアの理念によれば、知識というのは、複数の人間が協力しあい、影響しあいながら、構築していくものなのです。知識は見ることや聞くことを通じて、受動的に、孤立して得られるものだけでは、まだ不十分なものであって、**集団のなかで互いに議論しあい**、影響を与え合う行為を通じて、初めて本当に意味のあるものになるのです。

ミントリーフつくばでも、サークルタイムなどで、子どもの発信する機会を増やせるように、心がけています。
自分で考えると言うことを通じて、初めて学びは、真の意味で深まり、意味のあるものになるのです。それには、自分も表現する権利を保障されていて、その子が**個人として尊重されている**と言う安心感を得ることなのです。

対子どもだけではなく、自分が何か学ぶときにも沁みる言葉ですよね。
今はネットで情報がいくらでも入ってくる世の中。
スマホで動画を見ただけで、賢くなった気になってしまいますが、大切なのは、自分の頭で考えること、そして人と会話を重ね、体験を通し、自分の力に変えていきたいものです。

透かしを削除する Wondershare PDFelement

★③非認知能力
ミントリーフのとても大切にしている考え方です。
点数では測れない、いわば生きる力を支える内面の力です。

小学校でつまずかないないように、**保育園や幼稚園が予備校の役割をするのではなく**、例えつまずいてしまっても、「自分なら大丈夫」「誰かに助けてもらおう」「何度もトライしてみよう」「他に方法はないかな」などと、考える力、誰かに頼るコミュニケーション能力、視野を広く持てる力、粘り強さ、レジリエンスを大切にするのが、ミントリーフの考えであり、また、レッジョ・エミリアの考え方でもあります。

非認知能力を大切にされる保育は、実は小学校以降の勉強などの認知能力も高まると数々の研究でも実証されています。
（＊10月に【夢見る小学校】という映画がつくば市民ホールやたべで上映されます。とても心惹かれ、非認知能力の大切さを知れる映画なので、是非一緒にいきましょう！）

★④保育者の関わり方
・**見守る保育**
・子どもの可能性をスポイルしない
・まず観察
・保育者は先生ではなく、**共同学習者**
・環境は第三の保育者

「スポイル」というのは「無駄にする」という意味で、本を読んでいて印象的だったので、そのまま引用してみました。

レッジョ・エミリアの理念から言えば、私たちがしなければならないのは、子ども一人一人が持っている能力を認めて、それを、**愛情と信頼を持って見守り支えてあげる**ことなのです。

従来の考え方、つまり、子どもと言うのは、大人からやり方を教えられたり、使い方を教わったり、しない限り、何もできないと言う先入観を捨てなければならないと言うことです。
子どもたちは自ら考え、感性を使って何かを学ぼうとしている。

むしろ詰め込むスタイルの教育が、子どもたちの可能性をスポイルしてしまっている。
子どもも、私たちと同じように、いや、大人以上に、新しいことを自分で試して、経験を積んで、そこから新しい発想を導き出したり、新しいことを発見したりする能力を持っているのです。
もちろん、大人や先生は、この場の「主役」ではありません。大人たちは、子供を注意深く観察しながら、子どもたちの気づきや新しいことを表に引き出すための、**建設的な助言と環境を間接的にアプローチする**だけです。

いまだに学校では、授業を一方的に聞く受動的な教育が主流ですし、保育園ですら、まだまだそういった、子どもに知識ややり方を教え込む、**親ガモ小ガモ**保育の場所はたくさんあります。

透かしを削除する Wondershare PDFelement

はじめに触れた、マラグッツィさんの詩と結びつけると、子どもは自ら学び、自ら考え、自ら経験をしていく。でも保育者が教え込んだり、なんでも危ないからダメ！と学びを止めてしまう。やり方すら、自分で経験して学んでいけるのに、摘んでしまう。
想像力も、表現力も、可能性も夢も、フタをされてしまう。
子どもをもっと信じて、見守ってみましょうよ！と切望してしまいますね。自分自身にも言い聞かせてます。

また、レッジョ・エミリアの特徴的なところは、子どもたちが手にする作業や、学びの結果が何か形になったものだけに注目するのではなく、皆が発した言葉やお互いに交わした会話などを大事にして、子どもの成長を生かすことなのです。
子どもの自発的な発想や、推理、物事に対する力を尊重すること、また何かを実行するのに、十分な自由を与えてあげること、こうした点にあります。
要するに、結果だけでなく、**プロセスこそ**、子どもたちの中に眠っている**創造性、分析力、表現力、問題解決能力を引き出すことができる**、と考えるのです。

子どもが「どうして？」と言う質問をしてきた時、大人はその問いかけに単純に「答える」のではなく、自分も子どもも一緒に考えてみなければならない。そうすれば、子どもは疑いなく、その後ならではのアイディア、学説を披露してくれるでしょう。固定概念にとらわれず、子どもたちも潜在意識からなる想像力、それが未来の世界を作る大切な力になるかもしれません。

このことは、私自身も反省するところがあって、ついこの前、子どもに「バンパイアってどこにいるの？」と聞かれた時、ついネットで調べていました。「どこ発祥なんだろう？」と自分でも気になってしまい調べていました。
しかし、これが子どもの可能性をスポイルしてしまっていた！！
答えを出すことが正解ではなく、共に考えること。
子どもが自ら学びたい！と思う声がけをすればよかった！
子どもの世界観でいるもいないも、どこにいるかも、どんな見た目かも、子どもたちの想像力のまま認めてあげればよかった（号泣）

次からは「〇〇ちゃんはどう思う？」を口ぐせに、子ども自ら持つ想像力を探究心を伸ばせるように、保育していきたいと思ったきっかけでした。
CHAT GPTをはじめ、現代では疑問を簡単に解決するツールの誘惑はたくさん！
便利さが奪うもの、プロセスが教えてくれるもの、
保育の世界だけでなく、私たちも、常に意識しておかないといけませんね。

レッジョ・エミリアでは、**環境は第3の先生**と呼ばれるほど大切とされていて、空間、環境、雰囲気は、その人のほぼ一生にわたって影響を及ぼすと言われています。また、子どもの頃の物的環境は、大人になってからのその人の世界の理解の仕方や、家庭的、社会的な面での、行動の仕方に少なからず影響与えているものとされています。空間は言葉をしゃべらない先生です。

透かしを削除する Wondershare PDFelement

レッジョ・エミリアの保育空間では、大人にも、子どもにも優しい空間にあり、ピアッツァと呼ばれる広場、アトリエ、各セクションが設けられています。
刺激的な色合いは避け、温かな雰囲気を心がける。
自然なものが多いのも、印象的です。

また子どもたちを**「挑発」**する環境づくりも、私たち保育者の大切な役目です。
「挑発」と聞くと「え？喧嘩？」といったネガティブな印象を受けますが、ここでの挑発は、子どもたちの間に好奇心、驚き、興味、考えること、議論と、批判的な思考とを生じさせます。
ミントリーフの環境設定の中で、インビテーションという方法を取ります、これはすなわち、子どもたちがアクセスできる場所に、彼らが自由に見たり、触ったり、匂いをかいだり、組み立てたり、作り替えたりしたくなるようなものをあえて置いておき、興味を引き、そこから何かが始まるように仕掛けるというものです。

また、この挑発と言うのは、子どもたちが、普段暮らしている世界の外側からももたらされる場合があります。例えば、庭とか、公園とか、動物とか、植物とか、お天気…といったような自然のものから挑発を受けることもあります。また、人工物からの挑発もあります。

ミントリーフで取り入れてるインビテーションの一部を紹介します。

日常的にスタッフがアイデアを出し合い、仕掛けています。
突発的なものもあれば、プロジェクトのテーマに沿ったもの、前日に子どもが興味を持った物をより引き出したいというねらいで作っています。
アトリエだけではなく、他のコーナーのも仕掛けます。例えば自家製紙芝居を作っていた子どもや、サークルタイムごっこを楽しんでいる子どもがいた時は、その翌日は、そういった遊びがより発展するように、環境を作ったり、恐竜ブームが起こった時は、絵本コーナーも、意識して配置するように意識しています。

透かしを削除する Wondershare PDFelement

★⑤アート

レッジョ・エミリアの大切にしているアート
アートを充実して楽しむための、アトリエの機能として、子どもたちがお互いに自分のアイディアを交換し、他の子と協力して何かを成し遂げることを学ぶと言うものがあります。それは何もハイテク機器を使った作業とは限りません。単なる、粘土遊びでもいいのです。ここでは、子どもたちは毎日新しいことに挑戦し、学び、それを通じて、発想力や先進的、実験的な気風を養うことができます。
ですから、置いてある材料も、子どもが何かを理解しようとする欲求を促すような、また、様々な疑問を持つきっかけになるような、また、さらに、**五感を刺激する**ような素材が吟味して選ばれています。例えば、色と材質の布生地や、**自然のもの**、石、木、貝殻、植物の種など、があります。使われなくなった人工物もおき、それをリサイクルして子どもたちは新しい何かを作り出します。

写真はアートやセンサリープレイと言われるものですが、これも同様に大切な要素であります。
完成系が決まっていないからこそ、想像力、表現力をとことん発揮できる。そして大事なのが五感を使うことです。
ハーブの香り（嗅覚）を刺激し、色鮮やかなゼリーの（触覚）や（視覚）、竹の形や触る面により変化する肌触り、形、氷の音（聴覚）冷たさ、そして水に溶けていく科学的興味も繋げます。
クッキングを通して（味覚）に繋げるアクティビティも積極的にやっています。

食材は
学びの
宝庫！

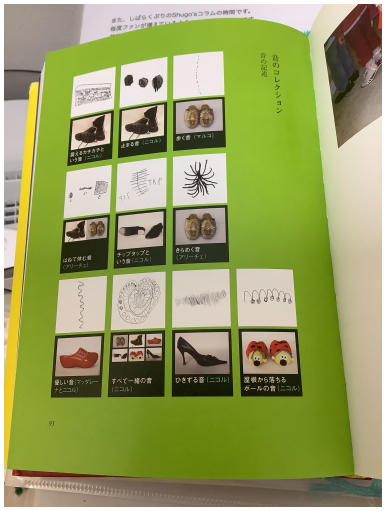
生花
アクティビティ

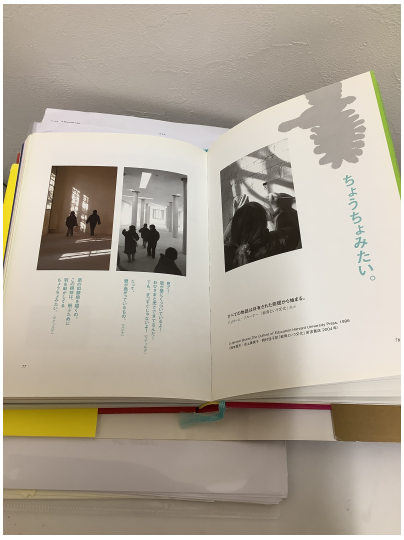
全身でアートを
楽しみます！

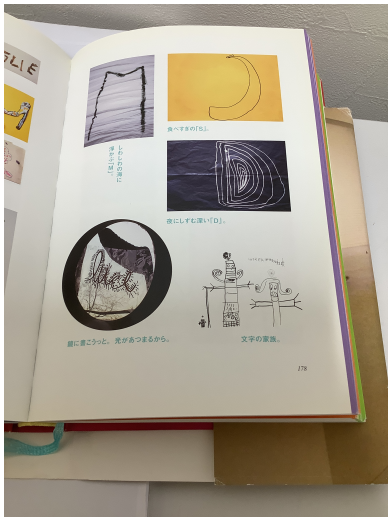
五感を
刺激して
食への興味にも
繋がります！

透かしを削除する Wondershare PDFelement

レッジョ・エミリアのアートって面白いんですよー！（愛が止まらない）
足音を絵にしたり、影を絵にしたり、感情を持ったアルファベットまで！アートにします。
履く靴によって音の音色が異なる、それも絵で表現したりするんです。
視覚からアート、聴覚からアート。楽しい！







以前年長向けに、ミントリーフでも虫の声、雨の音や昆虫の鳴き声を絵で表現するアクティビティに挑戦してみましたが、なかなか興味深いアクティビティになりました！

透かしを削除する Wondershare PDFelement

ミントリーフではまだ実践できていませんが、レッジョ・エミリアは、保育士や教師だけではなく、プロのスタッフもいる場所もあり、非常に重要な役割を持っています。
それは、アトリエの責任者の「アトリエスタ」がいます。レッジョ・エミリアの理念では、乳幼児保育所と幼児学校には、子どもたちのすべての言葉と同時に、音声による言語で表せない「言葉」の価値を尊重する義務があるとされています。その目的のために導入されているのが、このアトリエスタです。子どもたちの創造的プロセスと、様々な形での表現活動をサポートする役割を担っています。

レッジョ・エミリアの考え方からすると、子どもがものを作るアプローチは、**出来上がった作品そのものよりも大事とされている。**そのため、教師がお手本を作り、真似するようなものだったり、既製品を使いハロウィンの仮面を作ったり、母の日のプレゼントを作ると言ったものは**「アートアンドクラフト」**と呼ばれ、また違ったカテゴリーになります。また、子どもをただただ興奮させるボディーペインティングなどの遊びや、極端に刺激的なアクティビティーを提供することも、レッジョ・エミリアの考えとはまた違ったものです。

★⑥ドキュメンテーション
日々、子供たち同士の会話、行動やコメントなどをスタッフたちは、日々メモや写真や動画などに記録をしています。それらを整理し、誰にでもわかるように記録したものをドキュメンテーションと呼びます。
スタッフは、それを活動内容の設定や発展変更の際に役立てます。
こちらはミントリーフのドキュメンテーションの一部です。

一見、思い出アルバムのようですが、ドキュメンテーションの大切な要素は、子どもが何に興味を示し、その中でどういった成長をしたのかの**プロセスを記録する**ところにあります。
ある月に男の子のドキュメンテーション。
前の月に行った、秋の虫の声を、絵で表現するというアクティビティを翌月も気に入ってくれていました。
お散歩にいった時、コウロギを捕まえてきた男の子。
ところが、コオロギがなかなか泣いてくれず、がっかりしていました。
そこで図鑑で調べたり、お友達と話し合いました。
そして、コオロギは夜行性だから、昼は泣かないことに気づき、テントやマットを使って、暗い場所を作り、コオロギを泣かせるよう、実験していました。
この一連の流れからもわかるように、つまり子どもは、自らで学べるんです！自らにトライアンドエラーを繰り返して、経験できるんです！
そういった連続性のある保育、成長の一部始終を切り取り記録するのが、ドキュメンテーションです。

透かしを削除する Wondershare PDFelement

★⑦「プロジェクト保育」
1期間にわたる子どもたちの活動プロジェクトの単位のことです。1つテーマなどを決めて、そのテーマを深掘りしていく、そういった活動になっています。

子どもは通常2人から4人程度の**小さなグループ**に分かれ、家にある様々な道具や材料を使いながら、それぞれのグループのテーマに沿って協力して活動を行います。時間割などはなく、自分のグループが取り込んでいるプロジェクトを発展させるのに、必要なだけの時間を縦に使うことができます。また複数の活動に興味を持っている子どもは2つ以上のグループに同時に所属する場合でもあります。特に長時間集中して1つのことに取り組むのは苦手な小さい子のクラスは頻繁にそういうケースが出てきます。そういった場合、例えば最初30分は園庭で植物を観察をするグループに関わり、その後の30分間は粘土で何かを作っているグループに加わるといったケースもあります。

子どもたちのグループでの**共同参加、共有に重きを置く。**
一人一人がその中で権利を有して、**自分のコミュニティーに対して責任を持つ。**

ルールはルールのためにあるのではなく、最終目標はコミュニティーの中に置いて責任を持つと言う感覚を学び、成長してもらうこと。
子どもが「これをしたら叱られる」「こうしたら褒めてもらえる」と言うことを基準に自分の行動を決めるのではなく、個人にとって何が良いことか、集団にとって何が良いことなのかを、自分自身の判断で見分けることができる、そういう能力を身に付け伸ばしていけるようになるのが理想と考えています。
話し合いの大切さ、**指示待ち人間にならない。**そういったことにも、共同参加の意義が込められています。

また、学びの興味や基礎づくりにも、プロジェクト保育は素晴らしいです。
例えば9月のミントリーフつくばのテーマ。「ロボット」
ただロボットをダンボールで作って、ただ「工作楽しかったー！」以上。
ではないんですねー。
実は、さまざまな、気づきや、学びのチャンスが隠れています。

どうやって動くのかを調べる科学的意欲、自分たちで描く芸術的意欲、ダンボールなどでロボットを再現する際の、長さや本数を調べる数学的意欲、ロボット作りで出てくる言語的興味、博物館遠足に行くために、場所や行き方を調べる地理的興味。
遠足一つを取っても、歩いている時には虫や植物など生物学的興味、バスや車の構造、タイヤや窓の数や出発時間を見れば、時間への興味にもつながる、おまけに、博物館などの公共の場所では自制心や道徳心が身についていく、プロジェクト保育は、日常のあちらこちらにある学ぶチャンスをキャッチして探求していくことができます。保育者はそのアンテナを常に張り、発展するような機会と環境を与えていきます。

机に座らせてアカデミックな教育や保育をするのではなく
これこそ**遊びを学びに変えていく力**です。

透かしを削除する Wondershare PDFelement

私自身も思い当たる節があって、試験のために勉強した英語は、すぐ忘れてしまいますが、オーストラリアに住んでいた時、お友達が私の目の前で骨を骨折してしまった時があって、それはそれは大慌て！
そこで状況を伝えるために出てきた単語、「ambulance （救急車）」「swollen （腫れる）」などの言葉は、一発で覚えられた経験があります。
つまり人間は「これを覚えないと困る」「これができたら嬉しいことが増える」といった本能的なところに呼びかけないと、本当の学びにならないのだと感じました。
やっぱり、**体験を通して学ぶことはとても大切**で、言ってしまえば、必要かもわからない勉強を、机に座らせてやるよりも、実は合理的でもあるのかもしれません。

まとめ
今回は永久保存版、レッジョ・エミリアの教科書といった感じでお送りしました。
ミントリーフつくば園も、まだまだレッジョ・エミリアの勉強の真っ最中。
本に書いてあることを、やりたくても、まだ咀嚼できていないこと、物理的に難しいこともたくさんあります。
部屋の構造、異年齢保育の平屋のなかでどう実現させるか。アトリエスタなどの人的環境をどう工夫するか。また、スタッフ、保護者の方々との保育観をどう足並みをそろえていくか。

やりたいけどまだできてないこと、やれるけどあえて今はやらないこともあります。
それは、レッジョ的には100点のことも、ミントリーフの子どもたちの関わりには、100点にはならないこともあるからです。

本を完全コピーする必要はありませんし、
状況を無視してやったところで大人のエゴになるだけです。
しかし、学びを止めてはなりません。

文頭でも触れたように、レッジョ・エミリアは哲学であり、理念です。
それぞれの環境、状況に合わせて、保育を調合していきましょう。

できないことを嘆くより、できることを少しずつ。

どんな形でも、愛ある保育はきっと伝わる。